【学力向上フロンティアスクール中間報告書】（中学校）

都道府県名	青森県

Ⅰ　学校の概要（平成１５年４月現在）

学校名	下田町立　下田中学校					
学　年	１年	２年	３年	特殊学級	計	教員数
学級数	２	２	２	２	８	１８
生徒数	６２	６８	８１	３	２１１	

Ⅱ　研究の概要

１．研究主題

一人ひとりの学習意欲を引き出すための指導・評価の工夫
基礎・基本の定着と学力向上をめざして

２．研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

１年生・数学、英語（チームティーチング）
　生徒の理解の状況に差が出やすい教科であるため。
２年生・数学、英語（学年習熟度別授業）
　生徒の理解の状況に差が出やすい教科であるため。
３年生・数学、英語（学級習熟度別授業）
　生徒の理解の状況に差が出やすい教科であるため。

(2) 年次ごとの計画

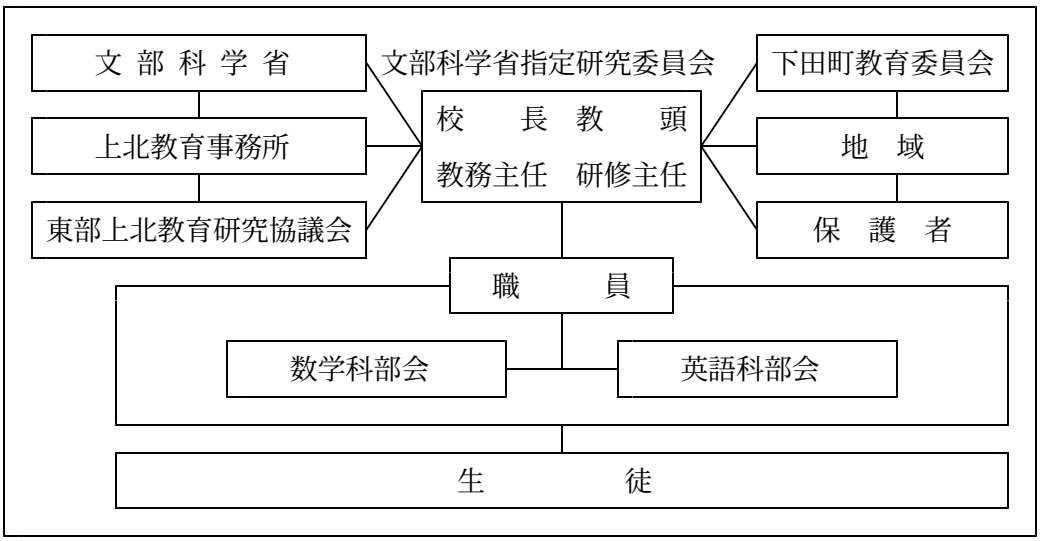
平成14年度	○テーマ 　習熟度別学習やティームティーチング（以下ＴＴ）の指導・評価を一体的に推進していくことにより、生徒一人ひとりの実態に応じたきめ細かな学習を確立し、確かな学力の向上を目指す。 ○研究の見通し（仮説） 　習熟度別学習やＴＴの指導を取り入れ、個に応じた教材の精選や開発、指導方法、評価を一体的に推進していくことで、生徒一人ひとりの学習意欲が高まり、確かな学力の向上につながるのではないか。 ○研究内容・方法 【３学年数学】 　２学級を習熟度別に３クラスに分けてそれぞれのクラスに教師がつき、授業を実施し学習援助を行う。 【３学年選択】 　２学級を深化（１コース）、補充（２コース）の３コースに分けて授業（社会・理科）を行う。 【２学年数学】 　２学級を習熟度別に２クラスに分けて、それぞれのクラスに教師がつき授業を実施し学習援助を行う。習熟の程度が低い１クラスはさらにＴＴを行い、副の教師は特に援助を必要とする生徒数名の個別指導に当たる。 【１年英語】 　会話中心の授業の時は、習熟度別でＡＬＴが担当するコースとＪＴＥが担当するコースの２コースに分けて行う。ＡＬＴが担当するコースは、より実践的な会話表現を学習し、ＪＴＥが担当するコースでは、より基本的な表現を繰り返し学習する。

平成	○テーマ 　習熟度別指導を行うための教材開発を通して ○研究の見通し（仮説） 　英語・数学において、生徒の学習スタイルと実態に応じて授業を行うために、同一教材、同一学習速度で学習内容の深化のレベルに応じた教材を

15年度	用い習熟度別に学習を行うことで一人ひとりの学習意欲を引き出すことができる。 ○研究内容・方法 研究の実施教科を英語と数学にしぼり、両教科とも、指導方法の種類として次の３種類を考える。 ・ティームティーチング ・学級習熟度別学習 ・学年習熟度別学習 発達段階、生徒の学習スタイルや教科学力の実態により、各学年が上記のいずれかの指導法で授業実践を行い、上記の指導法が有効かを明らかにする。また、授業の進み具合を同じにし、授業で取り上げる学習内容の深さ（深化）で授業を行うためには、どのように教材を深さを変えて教材化すればよいかを授業実践を行いながら明らかにする。

平成16年度	○テーマ 生徒の伸びを明らかにする評価システムの作成を通して ○仮　説 各教科において生徒の伸びを診断し、その結果に基づいて個々の実態を把握することにより生徒個々の多様な実態に即した指導が行うことができる。また、一人ひとりの生徒がその結果から「それぞれが現状を把握」でき、指導者の適切な支援により学習意欲を引き出すことができる。 ○研究内容・方法 それぞれの教科において、一人ひとりの実態を把握する評価法と伸びが分かる評価システムを構築する。そのシステムを授業においてどう活用すれば、一人ひとりの生徒が意欲的に学習に向かうかを明らかにする。

・(3) 研究推進体制



Ⅲ　平成１５年度の成果及び今後の課題

１．研究の成果

(1) 取り組みの方針

①加配教員

昨年度１名、今年度１名加配（２名で４０時間～３６時間ＴＴ）

②保護者への連絡

新一年生には、学校説明会の時に教頭から概略の説明を行った。

４月の第１回保護者参観日に校長から説明を行った。

③内容

数学科および英語科で

１学年…各クラスＴＴ

２学年…学年習熟度別学習

３学年…学級習熟度別学習

④校内組織　文部科学省指定研究委員会

月１回実施し、進捗状況、問題点の確認を行う。

（メンバー　校長・教頭・教務・研修主任・英語科主任・数学科主任）

⑤時間割編成
週１回、数学科、英語科各学年担当者の空き時間確保→無理なら放課後
⑥習熟度別学習のとらえ方
基礎的基本的事項（学習指導要領の内容）の定着の度合い
※分数、小数には触れない。中学校の内容をやる。
⑦習熟度のはかりかた
定期テストでの得点（到達度）によって判定する。
⑧コースの決めかた
・生徒や保護者からの希望はとらないで教科担当教員が協議の上で決める。
・年度当初のコース分けは、前年度の定期テストにより分ける。
・人数配分は教科担当教員が協議の上決める。
（コースの人数が学級の人数を越えることがないようにする）
⑨コースの変更
定期テスト等の結果をもとに教科担当教員が協議して変更する。
数学科…学期ごとに変更
英語科…定期テストごとに変更
⑩各コースの担当職員
数学科は固定、英語科は学期ごとにローテーションする。
⑪各コースの指導内容
・各コースとも共通の指導内容（学習指導要領内容）とし、進度も共通にする。
・各コースの指導方法や共通に扱う問題等について必ず事前に打ち合わせを行う。
・共通に扱う問題は、どのコースも必ず扱う。
⑫コース指導の差異
・扱う問題の量、難易度等の違い。
・学習スタイルの違い（自主的、協力、手取り足取り）
・理解に至るプロセスの違い（発見学習、教師誘導、教え込み）
・深度の度合いの違い。
⑬定期テストの作成について
授業で共通に扱う問題に準じた問題をおよそ半分出題し、残りは学習指導要領に準拠した問題で構成し、各コースとも共通問題とする。
⑭評価・評定
教科の評価規準を用いて、学校が定める評価・評定方法により、当該学年を担当する教員が評価評定を行う。

(2)実際の取り組み
①各学年の担当
数学　１学年…免許所持者２名
２学年…免許所持者２名、免許外担当者１名
３学年…免許所持者２名、免許外担当者１名
英語　１学年…免許所持者２名
２学年…免許所持者３名
３学年…免許所持者３名
②コース編成等（人数は平成１６年1月１５人現在）
数学　・１学年…ＴＴ　１人が前で授業、もう１人が机間指導。
・２学年…発展コース２５名
定着コース２７名
基礎コース１６名
・３Ａ……発展コース１４名　３Ｂ……発展コース１３名
定着コース１６名　定着コース１８名
基礎コース　８名　基礎コース　９名
英語　・１学年…ＴＴ　１人が前で授業、もう１人が机間指導。
・２学年…発展コース２５名
定着コース２７名
基礎コース１６名
・３Ａ……発展コース　９名　３Ｂ……発展コース　６名
定着コース１９名　定着コース１９名
基礎コース１０名　基礎コース１０名
③授業について
昨年度に比べ授業時数が増え、打ち合わせの時間の確保が難しいため、次の事を確認して授業を進めてきた。
【数学科】
・教科書の用語の説明をする。
・基本的にワークの問題を解くことができるようにする。
・ワークの〔Ａ〕の問題は、できるだけ全員が解くことができるようにする。

・ワークの〔Ｂ〕の問題は、できる生徒にはやらせるようにする。
・ワークのオープンセサミは発展コースの生徒にはできるだけ挑戦させる。
・基本的に１時間で２ページ（ＡとＢの問題）進むようにする。
・コースによっては授業内ですべての問題をとくことができないため、ワークの解答を全員に配付しておく。
・定期的に進度を確認する。

【英語科】
・学年主担当が全コース対応できるワークシートを作る。
1 は全員できるもの（基礎的なもの、重要なもの）
2 は定着コース、発展コース向けのもの
3 は発展コース（および定着コースでもできる生徒には挑戦させる）向けのもの
・進度は主担当の職員が全体の流れを見ながら設定して周知を図り、調整する。

④評価について

【数学科】
・関心、意欲、態度をみるための忘れ物のチェック、ノートの点検、発表の記録等をしておく。
・定期テストは観点別に問題をつくり、それを評価につなげる。
・評定は観点別評価をもとに機械的につけるが、担当者で協議し、生徒のふだんの取り組みの様子ができるだけ評価に反映されるようにする。

４観点のうち、「表現・処理」を２倍にし、５観点として考える。
Ａ…３点、Ｂ…２点、Ｃ…１点として計算する。

合　計		評　定
１５・１４	→	5
１３・１２	→	4
11･10･9･8	→	3
7	→	2
６・５	→	1

〔例〕

態度	考え方	処理	知識					５段階評定
A	B	AA	A	→	１４点	→	5
B	B	AA	B	→	１２点	→	4
A	C	BB	C	→	９点	→	3
B	C	CC	B	→	７点	→	2

【英語科】
・関心、意欲、態度を見るため、忘れ物のチェック、ノート・ワーク・ワークシートの点検、発表の記録等をしておく。
・定期テストは観点別に問題をつくり、それを評価につなげる。
・評定は観点別評価をもとに機械的につけるが、担当者で協議し、生徒のふだんの取り組みの様子ができるだけ評価に反映されるようにする。
・各観点は重み付けをせず、全て同様に扱う。

(3)昨年度の課題を受けて取り組み、成果の上がったこと

【１学年】
ＴＴの指導を考えていたが、本校職員の配置状況から実施を断念した。
→今年度はＴＴの指導を実施した。

「ＴＴの良かった点」（生徒アンケートから）
・わからないとき、もう一人の先生に聞けるから、わかりやすい。
・丸つけが早く進む。
・２人の先生が手分けして、わからない所を教えてくれる。
・居眠りする人を起こしたりできる。

【２学年】
▲基礎コースと定着コース内の生徒の実態が離れすぎているため、導入部分と定着部分から教材の深さを変えて授業を行う必要がある。
▲履修内容を理解するための基礎・基本が定着していないため授業が進められないという悩みが出された。（免許所持者１名、免許外担当者２名）
→導入部分から３つのコースに分けて習熟度別授業を実施した。

「習熟度別授業の良かった点」（生徒アンケートから）
・人数が少ないからけっこう楽。
・自分に合ったコースだからわかりやすい。
・わからない所はみんなとほとんど同じだから、ちゃんと考えられる。
・先生が変わらないので、授業の進め方が一緒だからやりやすい。
・他のクラスの友達と一緒に学習できる。競う相手を見つけやすい。

【３学年】
▲生徒の希望だけでコースを分けたため、実態にそぐわない編成になり、指導が行き届かなく、不満に思う生徒がいた。
▲指導内容の共通化を行ったが、下位の生徒へ対応したため、進度が揃わなくなることもあった。
▲単元の指導計画をコース別の深化を強調して作成したが、授業の進度が揃わないことが多かった。免許外担当者がいるので（免許所持者１名、免許外担当者２名）単元の指導計画だけではなく、毎時間の略案をもとにした教材研究の時間の確保が必要である。
→教師が習熟度別のコース分けをおこなった。コース分けに不満をもつ生徒も一部いたが、学習内容を理解させるという点ではよかった。
→基本となる進度ペースを決め、コース別進度表に記入し進度を確認しながら授業を進めた。

「習熟度別授業の良かった点」（生徒アンケートから）
・わからない所とか聞きやすい。
・発表（発言）の場が増えた。
・人数が少なく集中できる。
・一人一人に対してしっかり指導してくれる。
・わかりやすく説明してくれる。
・自分の能力に合ったペースで進む。

(4)その他の成果
・保護者および生徒へのアンケート実施
保護者への説明および参観日での授業の公開、アンケートの実施によって、理解を深めてもらうことができ、おおむね好評だった。
生徒へのアンケートでは、生徒が授業に対して求めていることも知ることができＴＴや習熟度別授業のあり方だけではなく、日々の授業改善のためのヒントも得ることができた。
・授業内容の公開
拡大校内研として数学の習熟度別授業を公開し、他の学校（小学校、高等学校も含む）の先生方からも意見や感想をいただき、今後の取り組みの参考にすることができた。
・同一教材、同一進度における教材の深さを中心とした教材開発
同一教材を用いてどのように習熟度別の授業を進めるのか、実際の授業の取り組みを通して、基本問題を繰り返しやる基礎コースと発展・応用問題まで進む発展コースという基本となる形ができた。

２．今後の課題
(1)望ましいＴＴの指導のあり方
２人教室にいても、１人が生徒指導的な対応を余儀なくされることがある。また、生徒の求めに応じて指導していくと、たとえ２人で机間指導をしていても、１時間の授業の中で、個別指導をしてもらえない生徒も出てくる。これらのことについて改善策を考えると共に、授業の進度が早いという意見に対して、習熟度別の授業とＴＴのどちらが生徒の実態に適しているのかを検討していく必要がある。

「ＴＴの良くなかった点」（生徒アンケートから）
・１人は後ろで見ているだけとか、悪い人に注意をするだけ。
・２人いても普通の授業とかわらない。
・別に２人の先生が教えるわけじゃないし、２人先生がいても教えてくれる人は１人だから、かわらない。
・１人の先生と１人の先生の教え方がたまに違う時。
・教えてもらってもわからない。
・教室全体を歩いてほしい。

(2)習熟度別学習のコース選択の方法
今年度は教師がコース分けをおこない、昨年度問題になった点は解消された。しかし、コース不適応の生徒が数名おり、成績の下降も見られた。原則として守っていく部分と、個々の生徒に応じて素早く対応しなければならない部分を考え、柔軟に生徒のコース選択を考える必要がある。

「習熟度別授業の悪かった点」（生徒アンケートから）
・もっとゆっくりやってほしい。
・自分のレベルに合っていないから。
・進むのが早い。
・点数が下がった。

(3)習熟度別学習のコース変更と担当職員の変更時期

英語科では、生徒のコース変更を校内の定期テストごとにおこない、担当職員をユニットごとに変えて指導をおこなってきた。そのため、コースのペースに慣れた頃に生徒の入れかえや担当職員の変更があり、落ち着かなかった。来年度は学期毎に変更する予定である。

「習熟度別授業の悪かった点」（生徒アンケートから）

・テストのたびに先生がかわる。
・先生がかわると進め方が違う。
・先生によって教え方が違うので、どう覚えてよいかわからない。

(4)進度を早めるための教材の精選とまとめの時間の確保

今年度、数学科では問題集を中心に授業をおこない、進度もおおよそ揃えることができた。しかし、丁寧に取り組んだため、全般に進度が遅く、各単元を振り返る時間を十分に確保することができなかった。来年度は各学年の主担当を決め、単元の指導計画を事前に確認しておく必要がある。

(5)絶対評価を考えた中間・期末試験問題の作成

保護者アンケートで「ＴＴをやっているのに数学の平均点が低いのではないか」という意見がよせられた。各教科のテスト問題の難易度によって、このような意見も当然出てくる。試験問題を作成する段階で、生徒の意欲の喚起を考えるのであれ平均点を高めに設定することになるし、学習した内容の定着の度合いをしっかりみたいと考えれば、低めの平均点になることもありえる。絶対評価ということを考えて、試験問題の作成については校内で検討する必要がある。

(6)教材研究の時間の確保

今年度は１人で全学年の授業を持つ者や、免許外で数学を担当する者がいたが、時間的な余裕がなく、教材研究の時間を十分に確保できたとは言えなかった。授業形態以前の問題として、「よい授業」をつくっていくためにも、教材研究の時間および学年担当者の打ち合わせの時間をしっかりと確保することが大切である。

(7)保護者へ取り組みの内容を周知させること

保護者アンケートの中に、ＴＴや習熟度別学習への質問があった。来年度も参観日にＴＴや習熟度別学習の授業を参観してもらうと共に、「 研修だより」の発行を通して、保護者の質問や意見に答えていく必要がある。

(8)基礎コースの生徒の意欲の喚起

２学年でおこなっている、学年を３つのコースに分けての習熟度別学習においては基礎コースに２つの学級の勉強の苦手な生徒たちが集まってくる。この基礎コースを学習集団として見た場合には、学習意欲がなかなか上がらないまま授業が進むことも考えられる。学習意欲の向上が見られない場合には、等質の少人数学習への切り換えも考えながら、より効果の上がる学習形態を検討する必要がある。

生徒アンケートの結果（平成１５年１２月実施）

１年　　教　科		数　学	英　語
ＴＴは	わかりやすい	１８人　（３５%)	２８人　（５４%)
	かわらない	２８人　（５４%)	２０人　（３８%)
	わかりにくい	６人　（１１%)	４人　（　８%)
がどいっいち	ＴＴ	３３人　（６３%)	３７人　（７１%)
	先生１人	１９人　（３７%)	１５人　（２９%)

２年　　教　科		数　学			英　語		
	コース	基礎	定着	発展	基礎	定着	発展
習熟度別授業は	わかりやすい	６人	１７人	１２人	５人	１８人	１３人
	かわらない	６人	７人	１１人	５人	７人	１１人
	わかりにくい	１人	０人	２人	０人	３人	０人
がどいっちは	習熟度別授業	１３人	２３人	１９人	７人	２５人	２０人
	学級での授業	０人	１人	６人	３人	３人	４人

３年　　教　科		数　学			英　語		
	コース	基礎	定着	発展	基礎	定着	発展
習熟度別授業は	わかりやすい	１５人	１７人	２４人	１０人	２３人	８人
	かわらない	２人	８人	４人	４人	９人	４人
	わかりにくい	０人	４人	１人	３人	９人	２人
がどいっちは	習熟度別授業	１５人	２５人	２５人	１３人	２５人	１２人
	学級での授業	２人	４人	４人	４人	１６人	２人

Ⅳ　学力把握のための学校の取組

平成１６年２月２０日に実施する学力検査の結果を昨年度の結果と比較することにより、生徒の学習状況の変容を観点別に把握する。

Ⅴ　フロンティアスクールとしての成果の普及

・平成１５年度中学校教育課程地区研究集会

日　時　平成１５年８月　８日（金）
場　所　三沢第一中学校
対　象　上北教育事務所管内中学校職員（およそ１／３）
発表者　数学科主任、英語科主任

・拡大校内研

日　時　平成１６年１月２９日（木）
場　所　下田中学校
対　象　下田町内小・中学校
　　六戸町・百石町内中学校
　　近隣高等学校
　　上北教育事務所管内フロンティア指定校および関係する教育委員会
内　容　２学年数学　習熟度別授業
参加者　本校職員１７名
　　校外参加者１７名
　　（小学校８名、中学校４名、高校１名、指導主事等４名）

◇次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】　□１５年度からの新規校　☑１４年度からの継続校

【新規校・継続校】　□３学級以下　□４～６学級
☑７～９学級　□１０～１２学級
□１３～１５学級　□１６学級以上

【新規校・継続校】　□少人数指導　☑Ｔ、Ｔによる指導
□その他

【新規校・継続校】　□国語　□社会　☑数学　□理科
☑外国語　□音楽　□美術　□技術・家庭
□保健体育　□その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】　☑有　□無